

知りたいこと

望むこと

3人の議員が一般質問

篠原町政12年を振り返って
思うことは

町長―感佩、
歓悦、感傷

岡崎 邦博議員



長の性格そのままに安定した町政を進めてくれました。

そこで、町長になられたからの12年間を振り返り、町長にとってはどのような12年間だったのか、また今後の町政につ

いては何が一番望まれるのか、これからの指針の一つにしたいと思えますので、町長の考えをお聞かせください。

町長

私は今までのことを総括して感じるとするならば1つは感佩。この感佩という言葉は深く心に感じ忘れることの出来ないものがある。

2点目は歓悦ですね。これは字のごとし心に感じて喜ぶこともあるということ。

もう1つは感傷。これも字のごとし、感じて心を痛めるということ。そういうもの

員の皆さんの力添えと、町民の皆さんのご理解とご協力があったからだと思います。

更には職員も一緒に汗をかいてやってくれました。

選挙に出るときには当然自らの政策といいますか、政治理念というものを持って出ます。一期あり二期あり三期とありますが、それぞれ公約を申し上げて来ました。全てとは申しませんが、ほぼ目的達成か或いは路線を引くことが出来たなという思いがいたしています。



議員の質問に答弁する篠原町長

が12年間町政をしながら今日になつたと思えます。これを乗り越えてこられたのも議

新しく町長になれる方については、それなりの政治理念というものがあると思っています。政治理念というものは自らが考える最高のものを持って、それに当たるといことが政治理念と私は理解しています。どういう方向でどのようにされるかは分かりませんが、考えの基本は住民の自治、幸せ、町の活性というところが基本になると思っています。

質問

篠原町長は平成6年4月に初当選されましたが、当時は町政が大変混乱しており、鞍手町政50年の歴史の中でも非常に暗い事件を受けての厳しい船出だったと思います。しかし、町長は持ち前の粘り強さと堅実さで速やかに混乱を收拾し、その後はバブルの崩壊による景気の低迷や地方分権の推進、三位一体の改革など、政治経済が激変する激動の時代にあつて、清潔で実直な町

配食サービスのさらなる充実を望む

町長—財源手当が難しい

松本 典子議員



質問 現在70歳以上の1人暮らしの方は1160人おられ、安否確認が必要ですが、総合福祉センターの配食サービスは週1回の約80食で、食の自立も火・木（夕食）で、やはり80食前後です。総合福祉センター

は1回に300食作れる施設です。何のために作られた施設なのでしょうか。

町長 配食サービスの目的は、町内に居住する独居老人及び高齢者所帯並びに寝たきり状態にある高齢者のために実施し、併せて安否確認を行うことにより、地域福祉、在宅福祉の推進を図ることです。

質問 町の基準では、65歳以上となっているが、これを70歳以上に絞っても、現在安否確認を必要としている人が1600人います。その中で、わずか160人、たった週1回の訪問を受けて

いるのみです。

総合福祉センターは、1回に300食作れる設計になっているのに、火曜日と木曜日に80食作っているだけです。なぜもっと活用しないのか。

町長 配食サービスは、社会福祉協議会が共同募金で行っています。もっと多くの人が利用できればと思いますが、財源手当が難しい。それに、買い物に行ったり、調理をすることも高齢者の健康管理になると思います。国の補助金に関する指導基準もそうになっています。安否確認については、民生委員や老人会にもっとお願いしたい。



配食を楽しみに待つお年寄り

次期町政に託すことは

町長—行財政改革を町民あげて実行

福本 博文議員



いうことが言えると思います。

昨年12月の行財政改革の答申を頂き、その報告をしましたが、当町の現状の厳しさという中からの取り組みであったと思います。そこで、まず始めに、行財政改革を町民あげて実行し、その中からきちっとした財源手当を考えなければならぬ。

これが第一であろうと思います。

二点目については、町の活性化を図るため都市基盤の整備が大切なことになります。インター、遠賀川架橋、下水道の整備などは町の将来における大きな財産になると感じ、活性化に向けて是非取り組んで頂きたいと思っています。

町長 これからの町政は、現実的には厳しいと

第4次総合計画について、議員の皆さんと一緒に作業され、こういう主旨を活かして頂くことを願っています。

人口の歯止めに必要な対策は

質問 人口の歯止めについては、どんな対策がありますか。

町長 人口減少はその大きな要因として、少子高齢化社会ということであろうと思います。

これにもやはり、都市基盤の整備だと考えています。環境づくりが大切です。道路、下水道、それからトヨタの増産体制に伴う関連企業の誘致が望まれます。

そうなれば、物流から、住宅から、そういうものを活かす工夫というものが必要となってきます。後は皆さんの力で、第4次総合計画をきちんと対応していただくことが必要ではないかと思っています。